

予算に計画書づくり、移
転費用が盛りこまれた
もの

課題その②

住民が住み続けたいと感じる川西市とは 公共施設の老朽化と対策(再配置)

中央北地区開発とまちづくり

山を削って宅地をつくり、人口が急増した川西市。早いニュータウンは40年を迎え、一挙に30%を超える高齢化が進んでいます。

それと同時に建設された公共施設や道路、橋脚も同じように老朽化してきています。耐震性の問題も含めて、対策が差し迫っている状況です。

日本共産党議員団が要求し続けていた学校の耐震化工事は3年後にはすべての学校で行われることが決まっています。しかし市立文化会館や総合体育館、消防署など対策はこれからです。

当然のことながらお金が必要であり、厳しい財政のもとで具体的に計画を立てなければなりません。市は「公共施設の再配置」を議会へ提案してきました。その一部を報告します。

中央公民館・文化会館を中央北地区へ移設
建て替えし、障害者施設など併設、複合的
な機能を持たせて運用したい。総事業費は
50億円。事業費を出すために文化会館跡
地は売却する。

老朽化、音響問題、避難通路など文化会館大ホールには安全上問題点があり、改修する必要があります。

市は複合施設にしていきたい、事業はPFI方式でやりたいと提案してきています。PFI方式は、設計から施工、維持管理まで一括して落札した企業が財政面でも責任をもって事業を行うという、公的事業でありながら民間企業が責任を持つ形で行われるものです。逆に市が望む品質で施工されるか不確定な要素もあります。

市は財政が大変な時だから、一時的にせよ企業が負担をしてくれ、市は後年度支払うことになるが大変助かるというのが最大のメリットとっています。しかしほかにも問題はあります。

事業者が途中でやめると市が代行しなければなりません。一時の財政出動は助かるかもわかりませんが、この間の入札実態を見れば、細分化して一般競争入札をするほうが安くつく場合もあ



ります。となれば財政的にメリットがあるとはいえません。中央北地区開発もPFI方式を導入するとしています。

アステ6階を買い取り、多機能型市民サービスセンターを設置して、生涯学習センターの機能を持つてくる。

適応教室「セオリア」をパルティへ移転する。
南消防署をNTT西日本所有建物へ仮移転させる。

日本共産党議員団はそれぞれの事業が「本当に市民のためになるのか」「無駄遣いはないのか」「機能的なのか」を検証して意見を言っています。

表面で書いたようにアステ6階買い取りは管理会社支援のためです。不登校児などが通う「セオリア」は、人目を気にする児童がいるので駅前を避けるとして、パルティから今のところに引っ越しをした経緯があります。

南消防署が一番老朽化しており、早期の改善が望まれますが、消防の広域化を推進しているためにすぐに建て替えができないでいます。そのような問題を抱えて再配置をしようというものです。